



# 名は体を表す。

アカモノ・シラタマノキ(ツツジ科)、イワカガミ(イワウメ科)、  
ツマトリソウ(サクラソウ科)、オオバキスミレ(スミレ科)、  
シラネアオイ(キンポウゲ科)

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

森林限界以上に生育する高山植物は、過酷な生育環境を肉厚な葉や深い根など形態変化で、乾燥や寒冷に耐える仕組みで生き抜いています。

今回は高山帯でも低木の樹下の空間をうまく利用し、可憐な姿を楽しませくれる仲間を紹介します。

ツツジ科のアカモノは、稜線上のハイマツ林などの半日陰地で見かけます。初夏に白い花弁と赤い額の花をつけます。由来は秋に熟す実をアカモモに例え転化しアカモノ。似ているシラタマノキもツツジ科で、丸くて白い実を白玉しらたまに見立てたもので別名シロモノとも呼ばれます。葉に艶があり細かい葉脈と、サロメチールに似た匂いが特徴。イワカガミは日当たり良い樹下で初夏に淡いピンクの花をつけます。由来は葉の艶が鏡のようなことから。

ツマトリソウと聞いて「妻」を連想しますが、よく観察すると7裂した花弁の外側がほんのりとピンクに褻取つまとられているのが由来。オオバキスミレは、日当たりの良いところで見られ、キスミレより葉が大きいことが由来。シラネアオイは、大輪の紫の花に見える額がくと、花弁のない黄色い雄しべと雌しべの美しさで登山者を魅了します。由来は日光の白根山に多くタチアオイの花に見立てたこと。

樹下は植物の生育に一見不利にも思えますが、低木の下層をほかの仲間たちとの共同生活でのびのび、日照をうまく利用しています。また、植物名は、命名者の観察眼と知識がちりばめられており、生態や形態がポイントです。さて、我々も仕事において仲間との協調や、体の表し方は大事なポイントですね！



アカモノ



シラタマノキ (シロモノ)



イワカガミ



ツマトリソウ



オオバキスミレ



シラネアオイ